

第1回南あわじ市総合計画審議会

議事要旨

日 時:令和8年1月20日(火)13時30分~16時00分

場 所:南あわじ市役所第2別館2階第5会議室

議題

1 開会

2 あいさつ

3 委嘱状交付

4 自己紹介

5 総合計画審議会の運営について

6 会長及び副会長の選任について

7 諮問について

8 報告事項

①総合計画及び総合戦略策定について

②南あわじ市の現状(人口・財政状況)について

③市民意識調査の結果(速報)について

9 その他

次回審議会日程について

5 総合計画審議会の運営について

事務局より「南あわじ市総合計画審議会の運営について」を用いて説明。
質問無し

6 会長及び副会長の選任について

会長に赤澤委員
副会長に原委員が選出された。

8 報告事項について

① 総合計画及び総合戦略策定について

事務局より「報告① 総合計画及び総合戦略策定について」を用いて説明。

委員

P4を見ても総合計画と総合戦略の関係性が分からない。

事務局

今までは市の最上位計画である総合計画と総合戦略で策定期間が異なり、P3でも記載しているが目標等が一致していないものとなっていた。今回合わせて策定することで目指すべき目標が一致した計画とする。

会長

総合計画と総合戦略の違いは分かりにくい。

総合計画の基本計画は第2次を見れば分かるが、施策のリストが載っている。これを全部同じように行うのではなく、特に重要な施策や連携をした結果波及効果を生む施策について戦略の方でまとめて重点的に推進していく。

委員

P5の市民と行政の関係性が分かりにくい。市民と行政どちらかが従属的なものなのか。

事務局

どちらかが従属的なものではなく、市民と行政が協働して計画を策定する。

審議会では市民からの意見を踏まえた事務局案について審議してもらうこととなる。

会長

参加と書かれているが、協働であり、まちづくりを行政と市民で行っていくという考えだと思う。本来であれば重なった図となり、策定の責任は行政にあるが半分半分で策定をするということ。

委員

P3に5つの行動と4つの基本目標があるが、5つの行動は市長が掲げている施策であってこれを変更するのはおかしいのではないか。

事務局

P3はこれまでの姿の説明で、総合計画では5つの行動による政策の柱、総合戦略は4つの基本目標とそれぞれ分かれていたが、今回は同時に策定することで、一体的に進めるということを説明したい資料となる。

会長

現計画は市長の政策表明の色が強くなっているが、最近協働型の皆で進める、考えるという方針

もあるため変更してもよいと思う。第2次ではこうだったが、これもあれもと付け加えるように議論をする余地は十分にあると思う。

現計画策定時はコロナ禍で人口が確実に減っていくことを見越していたと思う。今回何がかわるのか、また現計画で変えたけど変わらなかったというようなことを審議会の第1回、第2回までで議論したい。

委員

現計画から踏襲して策定するのか。ゼロベースで策定するのか。

事務局

継続していくものは当然継続していくが、市として新たに必要な施策等があれば計画に記載する。

委員

2月と4月に市民WSが予定されているが、内容は何を行うのか。

事務局

市民の皆様には今後の南あわじ市をどうしていきたいのか、方向性を聞くようなものとなる。

会長

基本構想の作り方は一番上の将来像から決める方法と、やりたいことを下から上げていく方法の2つがある。審議会では上から、WSでは下から考えることでサンドイッチする計画づくりとなる。

② 人口の状況について

事務局より「報告② 南あわじ市の現状(人口・財政状況)について」を用いて説明。

委員

国勢調査の速報値はいつ出る予定か。

事務局

速報値はまだ出ていないがもうすぐ出ると思う。しかし確定値までズレがあるため、参考程度となる。確定値は9月に出る予定となっている。

委員

住民基本台帳と国勢調査の違いは何か。

事務局

住民基本台帳はあくまで住所登録している人のリストのため、進学、就職等の理由で南あわじ市にいない人口も含まれてしまう。国勢調査であれば、今住んでいる人の数が分かる。大体1,000~1,500人程度ズレがある。

国勢調査の結果も含めて報告できる数字が手に入り次第、事務局で調整し委員に提供できればと思う。

会長

人口統計というのは急に悪くなったり、急に改善したりすることはあまりなく、予測通りに間違いなく進むのが通説となっているため、古いデータでも参考になると思う。また、事務局は委員の意見を尊重するために、あまりデータの説明はしなかったと思うが、唯一年少人口の比率に関しては安定するが、生産年齢人口は減少するという説明があった。つまり地域から若者が出て行くということであるためそこについて委員には考えてもらいたい。

委員

人口減少を抑制する施策は確かに必要だと思うが、全国的な課題となっており、解消は難しいと考えられる。人口が減ることを見越した施策が必要になると思うしそれがブランディングにもなると思う。

例えば公共交通分野では AI によるルート最適化等を行っている自治体もあるため、そういった先進事例を参考にしていくといいと思う。

委員

南あわじ市に来ている島外の人(移住者や交流人口)や昼間人口への施策も必要だと思う。

事務局

それに付随して困っていることは県民局の県職員そして警察関係に勤める人で、淡路島に住んでいる人が半分しかいない。これは防災の視点から課題だと思う。島外からこちらに仕事に来る、また市の施策として島外に出る人への交通費の補助等も行っている。

今後、時代が変わることによって必要な事業が変わってくると思う。例えば農業は全国農業従事者 175 万人だったが 102 万人と減っていて、こちらとしてはチャンスだと思っている。

委員

人口減少する未来にどう対応するかが重要だと思うため、人口が減ったときに市に何を残したいのかを議論すべきだと思う。

委員

国勢調査では、外国人人口が分かると思うが、南あわじ市の農地については就労者の5割以上が外国人になっていると思う。

そういった外国人の動向について知らせてほしい。

事務局

外国人人口は今時点で 800 人程度となっている。コロナ禍が明けてから年に 100 人程度、毎年増加しているような状況となっている。

委員

ベトナム人と仕事をしているが、1年で帰国してしまう。定住ができる仕組みや市民との交流の機会をつくらないとせっかく南あわじ市を気に入っても国へ帰ってしまったら、定住しても地域のコミュニティに入りづらかったりすることがあるのではないかな。

委員

農協では外国人の方へ作業支援を行っている。ももとの市民の農業従事者は高齢化が進行し、外国人に頼らなければならない環境となっている。外国人の定住につなげるためには生活環境やコミュニティといった環境の支援を行う必要があると考えている。

委員

今後、外国人が増えていったときに、必ず福祉分野においても、外国人への対応を行っていかなければいけない。そう考えたときに、外国人についての市の施策が薄いのではないかな。増えている現状を鑑みて、包摂的な支援に取り組んでいかななくてはならない。

事務局

確かに外国人に特化した施策というものはないが、農業であっても、宿泊業であっても多くの外国人が働いている。毎年 100 人程度増加していることを踏まえ、個別の自治体でできるような支援策が審議会や WS 等を出てくれば、それを踏まえることは必然的となる。

委員

地域の活動について若者や社会人が参加することが難しい状況となっている。若い人が地域の活動に参加しやすくなるような取組をしてほしい。

委員

各地域に公民館や市役所窓口サービス等が合流し、交流センターがつけられた。作られる際に限界集落という言葉も話題になったが、そういった各地区の人口の状況等も知らせてほしい。

委員

限界集落は南あわじ市でもかなりあると思う。若い人の地域参加に向けて、行政だけでなく、自治会でもそういったことを対策していかななくてはならないと考えている。

③ 財政について

事務局より「報告② 南あわじ市の現状（人口・財政状況）について」を用いて説明

委員

将来負担比率の説明をもう一度してほしい。

事務局

将来負担比率というのは、今の市の収入に対する自治体の地方債等の借金等がどれぐらいの割合かを示す比率となり、この比率が大きいほど、将来的に返さなくてはいけない借金が多いということになる。

今回はデータを示しているだけであり、これしか財源がないならできないとはなってほしくないため、あくまで参考値としてみてほしい。

委員

ふるさと納税額は現状どのくらいか。

事務局

例年よりも12月の分が低くなっており、前年の23億円に比べて低くなる可能性がある。額が分かり次第お知らせする。

委員

ふるさと納税で集まった金額は全て自由に使える財源なのか。

事務局

ふるさと納税の処理（手数料や返礼品の準備）等で5割使用するが、残りの5割は自由に使えるものとなっている。

委員

老朽化した道路の整備や橋の架け替えに年30億円使える自由な財源を使っているのか。

事務局

一般的な整備・修繕は経常的経費に含まれているが、新しく道路を通す、新しく橋を架けるといったことは経常的経費には含まれないため30億円の中で行うこととなる。

④ 市民意識町結果について

事務局より「報告③ 市民意識調査の結果（速報）について」を用いて説明。

委員

最近久しぶりに車を運転したが、以前に比べて、市道の劣化がひどくなっている。こういったこともアンケートで出てきているなら示してほしい。

財政の話に戻るが公共施設等の整備も、お金がかかっていると思うため、アンケートの評価等を参考として改善していかないといけない。

事務局

南あわじ市には 200 程度の公共施設があり、相当古くなってきている。それらを統合するのか廃棄するのかを 10 の班をつくり検討を進めているが、なかなかまとまらない。案は出てきても実態として例えばクアハウス等は部会で1つにすればどうだ、2つにすればどうだと案は出ているが決まらない。

また、質問のあった道路インフラについては、1050 本の道路、720 本の橋、217 本の川があり各地域から要望が出ているが、財政の話でもあったように使えるお金は限られており、内部ではいろいろ検討しているが、地域コミュニティを考えると必要以上の統廃合もしにくく、検討の最中となる。

委員

経済的な情報として、南あわじ市の金融の情報や1件当たりの農業の状況が分かるといい。

事務局

各産業それぞれの状態はつかめるかもしれないが、例えば農業センサスであれば1億円以上は何件、1000 万以上は何件と出てくる。工業統計、商業統計についても整理しながら提示したい。それぞれの統計で何年が最新なのか異なるため、委員の欲しいデータが集まるかは分からない。

会長

地域のナンバーワンになるような武器があれば、経済力があるという指標にもなるし、そこを委員に示せば、1つの参考指標となると思う。基本構想と基本計画を考えていくに当たってどこを頑張らなければいけないのか、どこを中心にはっきりさせるかを考えていった方がよいとは思いますが、データが多く出てきてもアイデアが出てくるかという点、一概にそうとは言えず、今の後期計画のチェックに終わってしまう気がする。

アンケート P6 の 5 段階評価で真ん中 3 点が普通、それ以上だと良い、それ以下だと悪いとなると思うが、重要度と推進度の 2 つで評価されていて、どちらも 3 以上であればうまくいっている強みとなっている施策であり反対にどちらも 3 以下であれば推進もされていなく満足でもない。こういったことをコンサル含めてクロス集計を行って分析してもらえるといい。

委員

南あわじ市の産業で儲かっている産業と儲かっていない産業があると思う。それが分かれば、さらに推すべき産業、また、今は収益が良くなくともさらに支援を強化すべき産業が見えてくると思う。

事務局

例えば農業分野であれば、非常に頑張っている世帯で 8000 万の売上げがある。しかしこれは努力によるもので、そうでない人たちは 1000 万、兼業農家で 100 万、10 万レベルもいるのでどういった状態で儲かっている儲かっていないかは分かれると思う。工業についても同様のことが言えると思うが、全体を見ながら判断することになると思うが、調べてみる。

会長

平均と分散の話で儲かるものは難しくて参入ハードルも高い。簡単なデータで分からないことも多いと思うので見てみてほしい。

委員

南あわじ市の平均所得は県内でも下位だと思う。先ほどの話を踏まえて農業等の個人事業主の収入で所得を上乗せできているのか、それともそれでも低いのかを調べてほしい。

事務局

納税情報から一定程度情報があるのかもしれないが、どこまで出せるのか、統計があるのか含めて調べてみる。

9 その他 次回審議会日程について

次回審議会は3月19日(木)13:30~となる。